		以上の取組を通じて、京都議定書の次の段階における実効性のある地球温暖化対策に貢献する。	○国際体制の整備；「だいち」データを用いた評価手法を利用する国際体制の整備		
グローバルな水循環や地球環境変動等の把握	国際的枠組みの中で、水循環に係る降水分布等の観測や、海外衛星による地球環境変動に係る雲やエアロゾルの分布等に関する、グローバルな観測を実施中であるが、長期間の変動を見るため今後も継続的な観測が必要であり、また予測の更なる精度向上が期待される。	国際的な取組の中で、地球規模の降水分布について現状の２倍の正確さでの計測、雲・エアロゾル等の分布について現状の２倍以上の高精度化等の性能向上を行い、継続的、グローバルかつ詳細に把握することを通じて、エルニーニョや砂漠化、集中豪雨等の異常気象の発生メカニズム等、地球環境変動や水循環メカニズムの解明と予測手段の確立を行うとともに、必要な情報の提供を迅速かつ適切に行うことにより、災害の予防に役立てる。	現状に比べ、以下の主要な点を改善することにより、地球環境変動推測モデルの確立と異常気象のメカニズムの解明と災害予防へ貢献する。 ○観測衛星整備；海外衛星に頼っていた雲・エアロゾル分布の観測を、国産衛星（より高精度な計測が可能）により継続的に実施する。また、新たに雲・エアロゾルの垂直分布の観測を可能とするセンサを開発・利用する。 ○センサ性能向上；精度の高い観測のため、以下のようなセンサの性能向上を図る ①（マイクロ波放射計）降水量、水蒸気量等の把握のため、現状の測定誤差±70%程度を半減する ②（多波長光学放射計）雲、エアロゾルの量の把握のため、観測メッシュ１㎞→250ｍへ改善 ③（二周波降水レーダ）２つの周波数を使うことにより降水域の垂直分布における雨の観測感度を0.7㎜／ｈ→0.2㎜／ｈへ改善 ④（雲プロファイリングレーダ）雲、エアロゾルの垂直分布や動きの把握のため、最小感度26dBZ→35dBZ（90%程度の雲が把握可能）へ約10倍改善。(雲の動きも把握) ⑤（Ｌバンドレーダ、光学センサ（カラー））温室効果ガスの吸収源となる森林や植生の変化の詳細な把握のため、分解能を10m→１～３ｍ（レーダ）、10m→３ｍ（光学）へ改善 ○分析手法の高度化；地球環境変動の解析手法（大気海洋結合モデル等）を高度化	国土交通省（気象庁） 環境省／国立環境研究所 文部科学省／ＪＡＭＳＴＥＣ	地球環境変動観測ミッション （ＧＣＯＭ―Ｗ(マイクロ波放射計)。その後も継続的に１機運用 ＧＣＯＭ―Ｃ（多波長光学放射計)。その後も継続的に１機運用） 全球降水観測 （ＧＰＭ（二周波降水レーダ）ＮＡＳＡと共同） 雲エアロゾル放射ミッション（EarthＣＡＲＥ（雲プロファイリングレーダ）、ＥＳＡと共同） 「だいち２、３号」（光学、レーダ)。その後も「だいち」シリーズとして継続的に２～４機運用
低炭素社会を支えるエネルギーの実現	地上では低炭素社会を実現する再生可能エネルギー電源（太陽光発電、風力発電等）の利用が進められているが、安定性などの課題があり、この課題等が克服できる宇宙におけるエネルギー利用はまだ行われていない。	地政学的な影響を受けず、安定的でクリーンなエネルギーを利用可能な宇宙における太陽光発電システムに関して、実現に必要な技術の研究開発を進め、地上における再生可能エネルギー開発の進捗とも比較しつつ、10年程度を目途に実用化に向けた見通しをつける。	○宇宙太陽光発電システム実現の見通しをつけるための研究開発 ・宇宙空間において効率的にエネルギーを集める技術 ・宇宙から地上に効率的かつ安全にエネルギーを伝送する技術 ・宇宙空間に大規模な構造物を建築する技術 ○当面の課題 ・地上でのエネルギー伝送技術の実証等と、「きぼう」や小型衛星による大気圏の影響等確認	（研究開発） 文部科学省／ＪＡＸＡ 経済産業省／ＵＳＥＦ 大学、民間等	宇宙太陽光発電システム小型実証衛星
【豊かな国民生活の質の向上（健康長寿や利便性向上など)】					
健康長寿社会の実現	高齢者医療等への宇宙医学研究成果等の適用により、骨粗しょう症、尿路結石などの対策研究や、宇宙での高品質タンパク質結晶化による創薬への応用などが開始されているが、まだ実用化にまでは至っていない。	高齢者医療、介護問題、創薬など、国民の生活に密着した課題等、地上社会の課題解決にフォーカスし、微小重力環境の利用を通じた実用成果の創出。	○活動目標；国際宇宙ステーション日本実験棟「きぼう」の利用を着実に進めると共に、国際約束に基づき、国際宇宙ステーション運用に必要な物資輸送（実験装置、水、食料等）を年に１機づつ行う（2016年以降は利用成果等を踏まえて運用延長を判断)。 ○今後の実験テーマ；創薬・医療分野や、食料、エネルギー、ナノ材料など社会のニーズに対応した実用化を目指した課題に重点化し、衣食住や高齢者社会における排泄の問題のような、より快適な生活の実現など、生活に密着した利用を推進。加えて、アジア唯一の国際宇宙ステーション計画参加国として、アジア諸国が「きぼう」を利用して実験する機会を我が国が提供する等、アジア協力を推進するとともに、地球観測による世界の環境監視に貢献する。	文部科学省／ＪＡＸＡ 大学 民間等	宇宙ステーション補給機（ＨＴＶ）初号機、運用機１～６号